

○ 芦城公園周辺再整備計画 骨子(案)について

未来型図書館等複合施設の整備・運営事業と一体的に進める芦城公園の整備について、本年度基本計画の策定を進めているところであり、基本的な考え方となる骨子(案)を以下に示す。

本骨子(案)は、芦城公園の守るべき必須条件と、事業者の創意工夫を期待する任意提案余地を区分し、未来型図書館と一体となった「公園×運営」の提案を促すためのものである。

(1) 基本ビジョン

市民が集い・学び・交流する まちのセントラルパーク(仮)

芦城公園は、未来型図書館を核として、「歴史・文化・自然」と「市民の日常利用・非日常利用」「学びと遊び」が重なり合う、開かれた公共空間へと再整備する。

公園全体を「知と活動のフィールド」と位置づけ、公園で過ごす時間そのものが学びや気づきにつながる環境を創出する。

また、未来型図書館の外部空間としてだけではなく、同じ理念を共有する「もうひとつの未来型図書館」として、「知と文化と交流が巡り、育つ場所」となる。

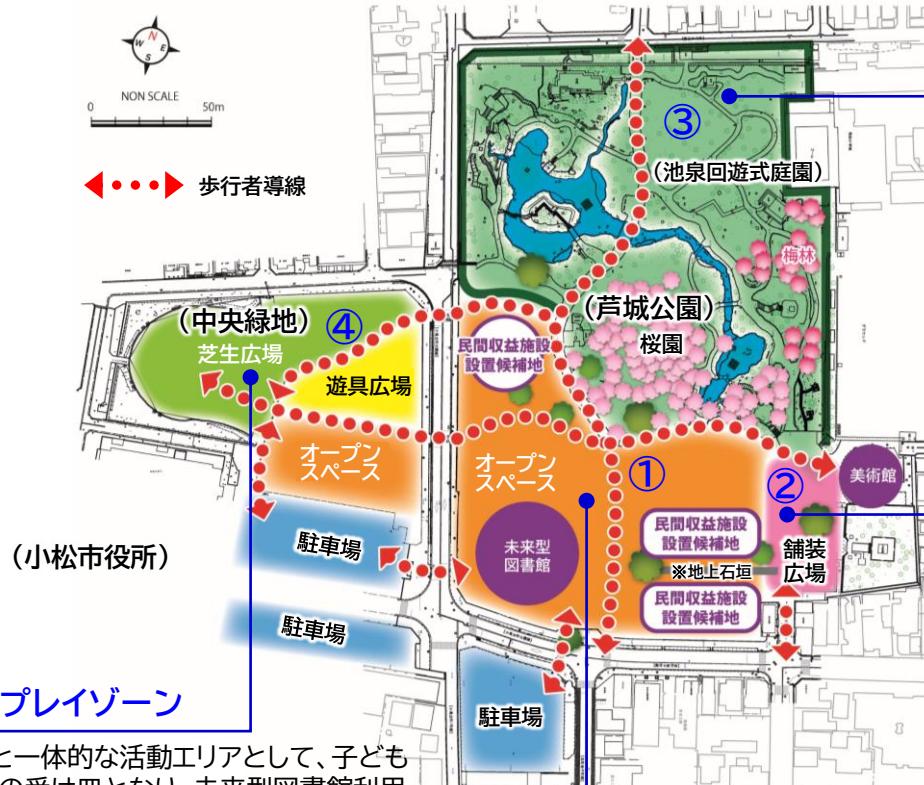
その中で、老朽化した公園施設の再整備に加え、未来型図書館と一緒にした庭園整備、オープンスペース整備により、地域イベント等も通じた交流を生むセントラルパークを目指す。



(2) 基本コンセプト

①	未来型図書館等複合施設と一緒に利用される「拡張された学びの場」	<ul style="list-style-type: none">施設内(未来型図書館)と施設外(芦城公園)を連続した学びと滞在空間として捉え、読書、展示、対話、遊び、憩いが自然と行き交う場となる。屋内外の一体利用を前提に、出入口周辺、動線、滞在家具、屋外読書(学習)環境を連続体として計画する。
②	市民の活動が「風景」となる公園	<ul style="list-style-type: none">イベント時だけではなく、日常的な活動や居場所が公園全体に広がる。また、使われ方が固定されず、時間帯・季節・人によって表情が変化する空間となる。日常時とイベント時で表情が変わることを前提に、可動・仮設・占用運用を計画に含める。
③	歴史と自然を「未来につなぐ」都市公園	<ul style="list-style-type: none">芦城公園が持つ歴史性や緑、水辺環境を大切に、新たな要素が一体的に融合し機能するデザインとする。既存樹木や景観の継承を優先しつつ、新たな要素は維持管理や更新性を重視して選定する。
④	あらゆる世代が安心して利用できる公園	<ul style="list-style-type: none">高齢化の進展や多様なライフスタイルの広がりを踏まえ、誰もが安全に安心して利用できる環境を整備する。移動のしやすさ、分かりやすさ、見通しの良さを確保するとともに、平常時の快適な利用と災害時の安全確保を両立させ、世代を超えて利用される公園としての機能を高める。
⑤	市民参画と公民連携による育み続ける公園	<ul style="list-style-type: none">管理運営は、行政単独ではなく、市民・民間・団体等との協働により芦城公園を使い続けられる資産として、公園の指定管理や民間活力の導入など公園運営の高度化を図る。

(3) ゾーニング構成と役割(ゾーニング案の具体化)



④ アクティブ・プレイゾーン

遊具や芝生広場と一緒に活動できるエリアとして、子どもや親子の日常利用の受け皿となり、未来型図書館利用前後の身体を動かす時間を支える。

<具体的な整備イメージ>

- 芝生+遊具(芦城公園内の既存遊具の移設を含む)
- 未来型図書館のキッズスペースと心理的につながる導線
- 保護者が見守りやすい配置

③ 庭園ゾーン

芦城公園の四季を感じる静的なエリアとして、芦城公園の歴史性・風情を継承し、散策や静かに滞在できるゾーン。また、景観を活かした新たな楽しみ方を創出する。

<具体的な整備イメージ>

- 既存樹木の保存と更新
- 老朽化したトイレの集約・更新
- 園路の再整備(歩きやすい環境整備)
- 小規模な解説・サイン
- 季節に応じたライトアップ・イルミネーション

② イベント・表現ゾーン

未来型図書館と本陣記念美術館をつなぐ「くつろぎゾーン」を利用者や観客と見立て、公園の賑わい創出や市民活動・文化発信の舞台となるゾーン。

<具体的な整備イメージ>

- 舗装広場(曳山子供歌舞伎の上演などにも対応)
- キッチンカー等が乗り入れ可能な舗装園路(既存園路の再整備)
- 電源、給排水設備

① 多様なくつろぎゾーン

未来型図書館と緩やかにつながる空間として、読書や休憩、会話・対話など自由な利用を中心に利用。イベント時の活用にも機能転換が可能なゾーン。

<具体的な整備イメージ>

- 芝生
- ベンチ、木陰 ※固定用途を最小化、仮設・可動を前提とした設計
- 電源、給排水設備

任意提案可能エリア(くつろぎゾーン内)

植栽や広場整備により、公園の魅力を高めるエリア。また、未来型図書館の整備・運営事業における民間収益施設の立地(任意提案)により、公園の公共性・景観を損なわず、公園の賑わいと公園の一層の魅力向上を図るエリア。

<具体的な整備イメージ>

- 植栽、広場(芝生広場)
- 民間収益施設(飲食店・売店) ※任意提案

※芦城公園の再整備については、未来型図書館等複合施設及び、民間収益施設 の提案を踏まえ、整備を行う。